

編集後記

国大化学会会誌第1号を皆様にお届けして、会員の皆様と新同窓会の発足を喜べますことを、幸せに感じております。

三同窓会のそれぞれの歴史の違いを越えて、今後の方向が一つになるようにとの思いを込めて編集にあたりました。新同窓会が発展することを祈ってやみません。

応化会の担当として無事に過ごせましたのは会員皆様のご協力、ご援助によるものと御礼申し上げます。

(平井太一郎 昭和41年応化2部卒)

横浜電化材化会会報第29号(平成12年)の編集後記は実は横山が書きまして、その文末に名教自然碑が登録有形文化財に指定されるらしいことや、バブル経済が再来しない限り国立大学が独立行政法人化されることなどのほかに、将来の化学系学生のために一日も早く両同窓会(旧の横浜電化材化会と横浜応化会のこと)を統合し結束を強化しておく必要があることを書いていました。それから数年後の今、最初の二つは既に指定および移行され、さらに旧同窓会の統合が現実のものとなり、電化材化会の会報でいえば第35号に当たりますが、記念すべき国大化学会会誌第1号の編集後記を書いているところです。本学の長い歴史の中でも最近の大学環境の流れは急に加速度がついてある方向に向かっている(いいのか悪いのか分かりませんが)ような気がします。ここに同窓会が一本化されたことによって、卒業生をはじめ現役学生および教職員の幅広い連携が強化され、この流れにうまく乗ることができるよう、いや乗せなければならないと思う次第です。今後の発展を願うのみです。

(横山幸男 昭和49年電化卒)

化学系の3つの同窓会、大学、教員、学生が一体となってから初めての会誌。この立派な会誌ができあがるためにはもちろん多く執筆者のご寄稿があってこそなのですが、役員会等での立案・議論、執筆者とのやりとり、写真撮影、業者との交渉、編集作業、発送作業……と多くの仕事をとりまとめていただいた編集委員と事務局の皆さんのおかげであることに感謝いたします。会員の会誌ですから今後も多くの会員の皆様によりつくられて行くことを願っております。

(禅 知明 平成元年物工卒)

横浜電化材化会の会報編集を33,34号と2回担当しましたが、国大化学会の第1号の編集にも携わることになるうとは思ってもみませんでした。今号は当初、それぞれの会が別々に最終号を出そうか、それとも完全な統合号を出そうかと議論になりましたが、結局、それぞれの会のページを残しながらも統合記念号を出すことに落ち着きました。皆様のご努力のお蔭で読み応えのあるものになったと思います。是非、今号の感想また今後の会誌に対するご意見、ご希望を事務局までお送り下さい。また、投稿をどしどしお寄せ下さい。お待ちしております。

(鈴木恵一朗 昭和45年電化卒)

国大化学会会誌 第1号

発行日	平成19年3月20日 印刷 平成19年3月22日 発行
発行責任者	樋口修一郎
編集責任者	平井太一郎・鈴木恵一朗
発行者	〒340-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台79-5 横浜国立大学工学部物質工学科内 国大化学会 Tel 045-339-3925 (直通) e-mail: yokochem@ynu.ac.jp
印刷者	〒169-0075 新宿区高田馬場3-8-8 (株)国際文献印刷社 Tel 03-3367-6841